

会議録

令和2年3月23日(月) 場所 3階 第5研修室

会議名：第9回総務・経済常任委員会

出席委員：平野委員長、廣瀬副委員長、手塚委員、安齋委員、新井田委員、相澤委員
竹田委員、又地委員

欠席委員：吉田委員

会議時間 午前9時30分～午前11時35分
事務局 福田、塚

開 会

1. 委員長挨拶

平野委員長 これより、第9回総務・経済常任委員会を開催いたします。

ただいまの出席委員は8名でございます。吉田委員より欠席の届け出がありましたので、ご報告いたします。

委員会条例第14条の規定による委員定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

早速、次第については配付のとおりで、資料についても事前配付しております。

2. 調査事項

○まちづくり新幹線課

・第2期木古内町まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

平野委員長 最初の調査事項はまちづくり新幹線課で、前回に引き続き、第2期木古内町まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案についてでございます。

早速、資料の説明を求めます。

木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 まちづくり新幹線課の木村春樹です。皆さん、おはようございます。

先日に引き続き、創生総合戦略について、ご審議いただきたいと思います。

2月20日の委員会で、お示しいたしました。その後、さらに作業を進めております。

具体的には、2月17日に第3回の総合戦略策定推進委員会を、2月25日に管理職会議の場において協議を、3月2日から19日にホームページ上において、パブリックコメントを募集してございます。

また、各課と断続的に、各分野における現状と課題、数値目標、基本的方向、具体的な施策と客観的な重要業績評価指標KPIを協議してございます。

また本日、午後から第4回の総合戦略策定推進委員会も開催する予定となっております。

改めまして、この総合戦略策定の考え方をお示いたします。

第1期で示した、出生率の上昇につながる施策と人口の社会増をもたらす施策の双方に取り組むこととしております。

第1期の5年間では、思うような結果を出していない自治体が多数でございます。木古内町も人口減少が収まっていないということの中で、評価と検証の上に、第1期の戦略を踏襲しつつ、継続すべき事業、改定すべき事業、新たに実施すべき事業を各自治体の特性を踏まえて検討していただきたいとの、国、北海道の意向を踏まえて策定しております。

また、並行して進めております人口ビジョンについてです。

これは、委託事業者と総合戦略の素案を示しながら断続的に協議しております。

国立社会保障人口問題研究所に準拠した推計方法をもとに、出生率の上昇、社会移動の均衡、そしてこれらの置換年度、いわゆる減らないっていう数値をいつにしていけるのかということを検討して、さらに独自目標を設定に向けた推計を実施している最中です。

これら行って、人口の将来展望、いわゆる展望人口、目標人口を想定しております。

目標最終年の2065年令和47年時点で、1,800人台の人口として現在作業を進めております。この1,800人台は、バランスのとれた人口構造ということで、年少人口20%程度、老年人口30%程度を想定して、作業を進めております。参考までに、第1期の人口ビジョンでは、2060年令和42年では、先ほど申し上げた社人研の1,152人になるということでございました。これを展望人口では1,992人、プラス840人ということで、想定しております。今後、この議会の委員会における議論やきょうの策定推進委員会における議論を踏まえて、成案としていきたいと思っております。

詳細につきましては、担当主査より説明いたします。

平野委員長 中村主査。

中村主査 まちづくり新幹線課の中村です。

それでは、私のほうから変更点について、ご説明いたします。

まず別紙1、第2期木古内町まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)をご参照ください。

実際の工程につきましては、基本目標からというふうな形になりますので、そちらからご説明いたします。

まず、基本目標1についてですが、8ページをお開き願います。

8ページからが基本目標1となります。

こちらの現状と課題につきましては、8ページの記載は変更してはおりませんが、9ページの林業の部分につきまして、森林環境譲与税の記述を追加しております。また、水産業につきましても、現状の養殖の部分ですとかそういったものを反映させております。

基本目標1の数値目標については、11ページに記載をしております。

11ページの数値目標については、前回と同様としておりますが、目標達成に向けたKPIを前回から変更しております。そちらについては、12ページに記載をしております。

まずは12ページ、水産業の部分についてですが、新たにナマコの養殖に取り組むこととしまして、KPIとしまして現状の5.8tから1t増の6.8tを目標値に設定しております。また、目標値の設定をしておりますませんが、具体的な施策事業については、なまこ以外にもそのほかにも新たな養殖に着手したいと考えております。

続いて、農業部門についてですが、施策事業について記載している繁殖雌牛導入事業は

変わりませんが、K P Iについてははこだて和牛の管内一貫生産を目指しまして、管内素牛生産割合を現状の83.8%から100%まで引き上げたいと考えております。

続いて、基本目標の2についてです。こちらについては、13ページ・14ページをご参照ください。

13ページ記載の数値目標については、変更しておりませんが、K P Iについて若干の変更をしております。

K P Iについては、14ページに記載をしております。

その中で、具体的な施策事業の②番についてです。

②通勤・通学支援、こちらについてはいまある事業を継続していきたいと考えております。前回の委員会の中では、通学支援者の増という形でご説明をしたところではございますが、実際に人口減少が進んでいる中では、数値増加は難しいと考えております。

しかしながら、この事業を続ける上で何より大切にすべきなのが、いまある交通機関を維持することが最も必要であるということで、こちらについては新幹線・道南いさりび鉄道・函館バス、こちらの各路線の本数を維持していきたいと考えておりますので、各事業所についても今後引き続き、ダイヤ改正等について要望していきたいと考えております。

続いて、基本目標3です。こちらについては、15ページからの記載になります。

数値目標についてですが、17ページになっておりまして、15ページにも記載しておりますとおり、合計特殊出生率については、町独自推計ではございますが、1.12となっております。5年前の合計特殊出生率については、1.25というところで0.13ポイント減少している結果となっております。

こちらについてですが、17ページの合計特殊出生率の基準値は先ほどご説明しました数値となっておりますが、目標値については空欄としております。こちらについては、人口ビジョンのほうの5年後の合計特殊出生率や全国の動向などを踏まえて、設定をしたいというふうに考えております。こちらの増加に向けた具体的な施策事業については、認定こども園の設置を検討していきたいというふうに考えております。

また、そのほかにも具体的なものは謳っておりませんが、こちらについては子育て世代のニーズに答えていきながら、いま現在4名おります町外の保育園・幼稚園への通園者、こちらについては5年後までに0人にしたいというふうに考えております。

続いて、基本目標4ですが、18ページに記載をしております。

18ページに下段に記載しております数値目標についてですが、宿泊客数の増加を新たに設定しております。こちらについては、観光振興計画の宿泊者目標数こちらを元に設定をしております。

続いて、19ページです。

基本的方向についてですが、こちらについては北海道が実施するふるさとワーキングホリデーの活用を検討したいと思います。

K P Iについてですが、具体的施策事業⑤番、交流人口の拡大による関係人口の増加ということで、こちらについては前回と同様となりますが、ふるさと納税額の増加額を若干修正をしております。5年後の令和6年度には、2,000万円を目標にしたいと考えております。

続いて⑥、広域観光の促進については、いま現在も実施している江差・松前周遊フリー

パスの購入者、こちらを 800 人まで増加させたいと考えております。

変更点は以上となります。よろしく申し上げます。

平野委員長 説明が終わりました。前回の時に詳細について、特に一次産業の部分についてはどうなんだという意見が多かったんですけども、今回は冒頭の課長の説明にもあったとおり、各課と協議をし、数字を反映させたということです。きょうは、産業経済課の課長も出席していただいておりますので、そのような詳細の質問にも対応可能かなと思われれます。各委員より質疑をお受けいたします。

あと、先ほどの説明の中で、例えば 11 ページの数値目標に変更ありませんという説明だったんですけども、目標値も変更になっていますよね。例えば 11 ページ、これ 60 人だったのが 50 人だったり。

中村主査。

中村主査 10 名の変更しております。大変申し訳ございません。その後の協議の中で、50 名に変更をしてございます。よろしく申し上げます。

平野委員長 あわせて 13 ページについても目標値変更ありませんってということだったんですけども、こちらのページも変わっているってということで、説明が間違っただけいいですよ。

どなたか質疑いかがでしょうか。

廣瀬副委員長。

廣瀬副委員長 廣瀬です。

何点かちょっとありますけれども、まず 1 点目、別紙資料 2 のほうでお伺いしたい部分がありまして、前回もお話したと思うんですけども、ヒジキの養殖ということで、結果的に良かったためだったのかちょっとそこは話ほさないんですけども、前回、ヒジキもしあれでしたらいまあるものを活用して、なんとかっていう部分でお話していたと思うんですよ。ただ、K P I の作成にあたってなかなか難しい要素でもあるというのは、重々承知はしております。ただ、私もなかなか良いものだと思うので、いまあるものを活用してなんとかブランド化につなげたいと。それによってなんか商品開発とかいう部分でやってもいいのかなって思いもあって、その辺をもうちょっと盛り込んでもらえればなというような思いもあります。まず、これ 1 点目。

あと、企業誘致の推進ということで、31 年の目標 20 件に対して、今回 10 件という形になっておりますけれども、この部分も縮小するんじゃなくて、あくまでも数値目標は 1 期と同じような目標を掲げて、それに向かってもらいたいなと思っております。

同じく、移住定住世帯の増加、これも 31 年度目標が 50 件に対し、令和 6 年度目標が 20 件ということで縮小になっているという部分でございます。以上、この 3 点お聞きしたいんですけども、お願いいたします。

平野委員長 片桐課長。

片桐産業経済課長 まず、ヒジキの関係です。ヒジキにつきましては、平成 30 年度の不漁によりまして、店頭に並ばないといった事態が起きました。それで、少しでも解消しようとして、養殖事業のスタートをさせましたが、一応前回の K P I では養殖技術取得者 10 名ということで、カウントしておりましたが、これは実質 5 名となっております。いまは、1 軒の漁業者が取り組んでおりまして、規模につきましては昨年度よりも倍以上の規模で、

一応実施しております。一応、廣瀬副委員長が言われたようにブランド化につきましては、やはりいままでの物販ですとか、道内外での売り込みなんかもありまして、極めて上がってきていると私どもは認識をしております。したいがいまして、ブランド力の向上ということに関しましては、一定程度成果が上がっているというふうには感じております。

さらに、ヒジキを使いました二次産品・三次産品の関係につきましては、まだヒジキの素材の良さというものをうちのほうでは重視しておりますので、当然そこについては商工事業者さんのほうで、新たな取り組みとして考えていただけるのであれば、それはうちのほうでも支援をしてまいりたいというふうに思います。

平野委員長 木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 廣瀬委員がおっしゃった、まず企業誘致の関係です。それと、移住世帯数の増加の目標値ということがございます。一次で策定したのは、新幹線開業前ということで、やはり新幹線の効果として一定程度あるだろうということも含めて、このような数値目標を設定したということがございます。その新幹線効果も一段落した中で、現実にはいま展開している事業の中では、このような数値が妥当であろうということで、提示させていただきました。ただ、これが低い目標ということではなくて、いま現在例えば企業誘致の関係でも、なかなか進展していないというような状態がございますので、今後企業への働きかけ含めてやっていった中で、この程度の目標を掲げてやっていこうということがございます。

また、きょうの午後からの委員会もございますので、そこでも少し意見をいただきながら、どの程度の目標が妥当かということを再度検討していきたいというふうに思っています。以上です。

平野委員長 廣瀬副委員長。

廣瀬副委員長 まずヒジキのほうなんですけれども、一次の部分で作成した時に、養殖というのはわかるんですよ。養殖後の商品のパッケージだったりブランドであったりという部分で、かなり最終段階までネーミングだったりいろんなものを考えていたと思うんですよ。でも、今回それはできていないという結果だと思うんですよ。だから、それを踏まえていまあるものをブランド化、ネーミングだったりパッケージだったり、いまある業者と話をしてアピールしていくというのが必要なんじゃないかなって思う思いもあるんですよ。その辺です。

あと移住定住、企業誘致に関しては数字、いま木村課長が話されたとおり、そこは十分わかります。しかし、やはりちょっと高い目標を持ってもらったほうが私はいいんじゃないかなと思ったりもします。

あともう1点、2ページ目の子育ての部分で、予防接種の無料ってあるんですよ。これ担当課ちょっと違うからあれかもしれないですけども、どの辺まで予防接種の無料化っていうのを考えているのかということも聞きたいなと思っていて、お願いいたします。

平野委員長 3点なんですけれども、私のほうから補足と言いますか関連でヒジキなんですけれども。そもそも養殖にこれまでお金かけてきた部分については、今後どう取り組むんだっていう廣瀬副委員長の質問だと思うんですけども、やはりこの養殖に手がけたというのは木古内町のヒジキが良いというブランド化がいま課長の言葉ではだいぶ進んだんではないかということだったんですけども、一昨年、漁業者の自粛もあって採らなくて1

年間売れなかったと。去年も厳しいっていう中、結構な量採れたんですよ。そうしたら、結局ことし・去年の春採った部分が売れずに、大変在庫が多いという状況があるんです。

というのは、ブランド化が進んでいると言っても全然そこまで販売をできるようなルートもないんですよ。1回ストップしてしまうとそういうブランド物って商品というのは、必ずお客さん離れて進みますから、いままさにその状況だと思うんですけども、やはり養殖を進める以前に、天然物のヒジキを木古内町のヒジキは素晴らしいんだよとブランド化進んでいますよって、じゃあどんどん売っていくってところがなければ、やはりこのあとの養殖にもつながっていかないと思うんですよ。その辺の部分もあわせて、もし考えあればあわせてお答えいただきたいなと思うんですけども、どうでしょうか。

片桐課長。

片桐産業経済課長 いま、平野委員長と廣瀬委員のほうから言われました関係です。

まずヒジキにつきましては、やはりブランド化ということを前提としまして、町のほうもしっかりと応援していくということもありまして、道外の物販等におきましては、基本的には売れ筋商品だというふうに認識をしております。あとは、やはりもうちょっと魅力を高めて、売り方ですとか販売ルートをしっかりと決めていくということにつきましては、やはり町としても積極的に関与しまして、取り組んでまいりたいというふうに思います。

以上です。

平野委員長 木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 予防接種の無料化っていうことなんですけれども、現在行っているのは、法定の予防接種について無料としてございます。これを今後とも継続していくということでございます。以上です。

平野委員長 企業誘致の件は、さっきと同じ答弁になりますかね。

木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 企業誘致関係でございます。また、移住定住世帯の増加ということで、廣瀬委員の意見も踏まえながら、きょうの委員会の中でも少し議論した中で、検討していきたいと思っております。以上です。

平野委員長 廣瀬副委員長。

廣瀬副委員長 そこはよろしくお願ひします。予防接種に関してなんですけれども、広報で確かチラッと見たんですよ。今回、ロタウイルスということで盛り込んでいました。

この辺も無料になるのかどうか、そこまでちょっとわからなかったもので、もしそこが推進できるのであれば、ここはお願いしたいなと思っております。

あと最後にちょっと前後になるんですけども、移住に関する相談件数っていう中で、東京江戸川区区民まつり移住PRということで、前回は目標数値っていうことでやられています。今回もそうです。先日の定例会において、町長答弁ありました。東京23区とも強いパイプがあるという話も聞きましたので、ここは江戸川区に限ったことじゃなくて、できることであれば23区全部にPRできるようなことを盛り込んで、策定してもらいたいなと。

また、素晴らしいプロモーションビデオも作成しているということもお聞きしましたので、それをぜひ活用して推進してもらいたいなと思っております。以上です。

平野委員長 今後の会議にもその意見を反映させていくということですので、正直ヒジキ

の答弁に関しては、物足りないというかももう少し踏み込んだお答えもいただきたかったんですけれども、現状ではしっかり取り組むという言葉はいただきましたので、もうすこし期待したいと思いますけれども。

又地委員。

又地委員 特産品云々っていう言葉が随分出てくるんですけれども、例えばいまヒジキの話題が出たので。ヒジキを特産品とするためには、例えば量がいくら上がるんだろうと。

採れないものを特産品って言ったってこれ特産品にならないし、例えば木古内のヒジキがなぜ良いかというのは、天然なんだと。ところが、漁師の人は磯に行ってゴールデンウィーク時期に採ると。だけれども、組合に出していないのが実態でしょうと聞いています。そうすると、いつまで経っても特産品にはならないし、例えば木古内の特産品としてこれから取り組んでいくっていうのであれば、量の確保がなければ特産品にならない。これは連携するけれども、例えばふるさと納税 2,000 万円の目標は立てると。立てましたよね、2,000 万円。この基本的な 2,000 万円っていう金額は、どうやってはじいたのかな。

ただ、希望的な金額の 2,000 万円でないのかなと。であれば、これは素案ということなので、私は真摯に受けるけれども、例えばはこだて和牛にしてもそうですよ。ブランド化、ブランド化って何年やってきたんだろうと。例えば、ふるさと納税と特産品と絡めるのであれば、はこだて和牛は 230 頭マックスだよと、これはわかっている。だけれども、ヒジキに関しては、例えばふるさと納税の返礼品として取り組むっていうことであれば、量の確保がいくらになるのかっていうのを浜のほうといろいろ知恵を絞る中で、最低でもこれだけはという量を確保しないとだめでないのかと。あるいは、なまこの話も出てきた。なまこも結構量があるよというようなことも伺っています。このあと、委員長のほうからも話あったけれども、政策予算については改選後、補正で組まれるので事務調査の対象にその時にするという事なんだけれども、従来、町長が言ってきたホタテにしてもウニにしてもどんな取り組みをしていくのかと。例えば、特産品っていうのであれば、いままでずっと稚魚稚貝の補助金を出してきていたわけだ。それらがここに載っていないっていうのは、不思議だな。これは、ずっと何十年も継続事業でやってきているんだ。そういうものが途中からなくなってしまっている。だから、その辺がいかには素案と言いながらも、そういうものが網羅されていなければ、これはまずいだろうとそんなふうに私思っているんですよ。期待するのは政策予算については、浜を含めて改選後に出てくるということなので、期待するのはその辺りよりないんだけど、今回のこの戦略の中に載ってこないだめでないのかと思うんだよ。載ってきて改選後にそれを実行してもらって、実行すべき予算がどんな形で出てくるんだろうかと私はそう思っているんです。もし例えば政策予算として改選後に補正で出てきたとする。これに追加になるのかな、この素案に。どういうふうになっていくの。いくら例えば政策予算であっても、町のこれから取り組んでいく姿勢として、そういうものがこの中に載ってこないだめでないのか。ヒジキ、ヒジキって言うけれども、実際に浜はどうなのかと。九州かどこかまで行って、視察に行って帰ってきたと。だけれども、さっぱり熱が入らない。それはなぜなんだろうかと。浜が悪いんだろうかと、あるいは担当課のほうで現課のほうで、浜と力をあわせる中で、もっと強力にというか取り組んでいくその姿勢、それが不要でないのかなというふうな気もしないでもない。浜からいろいろ、あそこ苦しい、ここはこうだという声が上がってくる。上がって

くるかなんとかしてやりたいなという、議員懇談会の中でもいろいろ話は聞いた。けれども、実際に浜はどうなんだろうと。ちょっとやってみたらだめだから、熱入らないとか、それであれば税金に投入する必要もなくなってしまふ。だから、どういう意気込みにさせるかと言うのは、やはり担当現課のほうでないのかなとそんなふうに思っているんですよ。

一つ、ふるさと納税の2,000万円、金額まで載せてきたわけだから、その辺の2,000万円という数字を上げてきたその背景の試算の仕方というか、その辺をちょっと知りたいし、それから18ページ。18ページの一番下、宿泊客数の増加、これ上のほうもそうなんですけれども、観光入込客数の増加もそうなんだけれども、この部分は7万ちょっとくらいだ。

そうすると例えば、従来道の駅を訪れた人が一人あたりの購買力とかというのは聞いてあるから、ある意味では経済効果がこのくらい出るだろうという試算はできるんです。ただ、9,100人から宿泊客数の増加、9,100人から1万7,500人と。これは、こういうふうに試算しましたよと。素案として出してきた。そうすると、このあたりの経済効果というのが市場を調査する中で、どの程度の経済効果が生まれるんだろうというところまで、試算した中でこのあれですか。1万7,500人、令和6年。その辺をちょっと知りたいなと思います。ただ単に、このくらいだ、このくらいだと言うような試算では私はないと思っているから。それでないと説得力も何もない。この部分と2,000万円のふるさと納税の部分だけでいいですので、もっとあるんだけれども、あくまでも素案ということなので、この2点教えてください。

平野委員長 中村主査。

中村主査 ただいまの又地委員の質問について、お答えします。

まずふるさと納税の部分についてですが、こちらの2,000万円の根拠なんですけれども、まず当町のふるさと納税への取り組みというものは、全国的に見てもかなり低い数字にあります。納税額含め、またサイトへの搭載も含め、全国的にもかなり遅れているという状況でございます。その中で、今後については総務課のほうで、全国的に有名なサイトへの登録等を行って増やしたいというふうに聞いております。そちらについては、当町よりも先ほどの特産品の量が少ない町についても同様にサイトを載せたというサイト登録数を増やしたところ2,000万円程度については、概ねクリアするというところで今回設定をしたところなんです。

また、宿泊客数の増加についてですが、こちらについては観光入込客数については、観光振興計画の令和9年度の目標値70万人から積算をしております。宿泊客数についても、観光振興計画の令和9年の2万人を目標としているというところから、今回中間年にあたる令和6年度の目標値としまして、1万7,500人を目標として取り組んでいきたいということで、数値を設定したところでございます。

平野委員長 木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 又地委員のいくつかの点にお答えいたします。

まずウニ、アワビの人工種苗事業につきましては、これは当初予算のほうに計上してございますので、今後も継続していくということで、この戦略に掲載している事業については、町の振興計画なりあるいは予算での実行事業についてのとりわけ重点としているものについて、これに掲載しているものでございます。

ですから今後、変更することは可能なんですけれども、今回の首長選挙を含めて政策予

算で目玉として出てくるものについては、追加計上ということになるのかもしれませんが、現行までの継続のものについては、取り立てて掲載する予定はございません。

それと、基本目標4の観光入込客数と宿泊数については、いままでの観光調査の中で1人あたりの単価、アンケート調査でございますが、おおよそ日帰り客が2,500円、宿泊客は1万数千円というふうに出てございます。ですから、経済効果としてかっちり積算はしてございませんが、その増加したものに合った経済効果が町内に出てくるというふうには想定してございます。以上です。

平野委員長 又地委員。

又地委員 ふるさと納税の2,000万円に関しては、これ例えば2,000万円をふるさと納税で納めてもらうためには、全国平均木古内は少ないって話あるけれども、それはある意味では仕方ないこと。ふるさとを思う人があるいは木古内の返礼品に関して魅力がなければ、ふるさと納税なんてしてくれない。基本はそこですよ。例えば、森町が38億、30億以上だ。30億以上なんだけれども、いまは総務省からいろいろ意見が出て、金額は3割程度だとかっていうある意味では一つの規制みたいなものがかかったけれども、38億ふるさと納税が森町であったころは、6割が返礼品だと。20億以上ですよ。38億ふるさと納税あって、22億が返礼品のお金だっていう。それで、森町の町長さんが待ったかかった。どうやって森町の特産品をどうやって町場の人方に生産してもらって対応していくかということで、随分悩んだそうです。いまは30%ですか、納税額の。それに網かかっているようだけれども。例えば、2,000万円を納税してもらうためには、それなりの特産品、返礼品の開発なりあるいは量の確保だとかそういうものをしないと絵に描いた餅になるだろうというのが私の考えなんです。だから、いま聞いたんだけど。宿泊客数の増加に関しては、これすごいね。そうすると、令和6年の目標値を達成できるとすれば、すごいね。その辺は、極力とかにかく絵に描いた餅にならないように行政も議会も一緒に知恵を絞っていかないとだめだろうとそんなふうに思っております。

浜の部分に関しては、たぶん課長からもあったように、政策予算の部分で議会としても3月の定例議会では浜の部分に関しては、一般質問も出ました。そんな中で、じっくり現課をかねて対応していただきたいなど。それでないと木古内の浜は、死んでしまうよ。わかっていると思うけれども、年齢。漁師さんの年齢見ると、あと5年も経ったら何軒になるんだろうと思うし、そして後継者がいない、育っていないという現実もあれば、ここだからこそ行政がかなりな力を貸してやらないとだめでないのかなとそんなふうに思っています。素案ということで、これからまた肉付けしたものが出てくるというところに期待しておりますので、よろしくお願いします。

平野委員長 いま又地委員が言ったように、このあと政策予算がもし出てきて、さらに案があって、肉付けがされるとすれば、いまのこの素案に対しての議論ってなかなか深くまで話できない部分が出てきますよね。特に漁業だったりそういう部分は皆さん、過去の常任委員会でも様々な意見が出ている中、詳しく聞くと今回だって、ヒジキが今まで前回のまでに載っているのに急に全部消えて、いきなりなまこが出てきて、当初予算でもなまこが入っているわけでもないし、どういう流れでこれに出てきたんだって話も深く聞きたいところなんですけれども。じゃあちよっと待って、このあとにまたまたいろいろ案としては特に産業経済課の部分になっちゃうので申し訳ないんですけども、そういう話が出

てきた時にまた振り出しになって話をしなきゃならないものなのか、その辺がちょっときょうの議論の論点として非常に難しいなと思うんですけども。

竹田委員。

竹田委員 この12ページの資料見て、前回2月20日の常任委員会で素案が示されました。

それから、1か月後に今回のこの具体的な施策の関係、かなり大幅に変更になっているんですよ。これは、例えば先ほど報告あった2月の17日に策定委員会を開催して、その中で議論でこういうふうに施策、あるいは目標値が大幅に変わったのかどうなのかっていう部分。

平野委員長 中村主査。

中村主査 ただいまの質問に対して、お答えします。

実際のKPIについてですが、こちらについては2月17日の策定委員会のほうでは、委員さんにはここについては現課とのすりあわせをまだ十分にしていないというところで、変更になる旨をお伝えした上で、素案のほうを提示しておりました。その後、2月20日の常任委員会につきましても、皆様から現課とのしっかりとした協議を行うようにとの指示を受けましたので、そこでこの1か月間現課と議論をした中で、今回新たなKPIとしてお示しをしたところですので、変更につきましては庁舎内での協議を経て、変更したということになります。

平野委員長 竹田委員。

竹田委員 どうなんだろう、この戦略会議の策定委員。予算だってやはり15万円くらい計上しているんですよ。やはり12名の策定委員さん、やはりこれ活かすべきだと思うんですよ。そこでの議論で、これ前回の例えば素案から今回の施策、あるいはKPIの目標値が数字が20から10に落ちたとか、逆に増えたものもこれありで、そうなったっていう議論をそこですべきでないの。やはり庁舎内でただ、担当集まって例えば漁業振興の部分はあまり前回ヒジキしか入っていないから、今回なまこをいれようだとか、なんか安易な計画にしか思えない。そして、新たな養殖事業を展開してって。あくまでもこれ議会からの訴え等も含めて、何かをアクション起こさなきゃだめだろうって。そこで、庁舎内で詰めるのであれば、何々をして新たな事業展開するんだっていうところまで至らなければだめでないのかなっていうふうに思うんですよ。どうもその辺が何て言うんだろう、策定委員さんって何をやっているのかなってそういう疑心暗鬼に出てくるんですよ。そこで議論して、はじめて前回の2月の20日の素案が今回修正になって出てきましたっていうのであれば、当然民意も反映されながらそうしたんだっていうふうにわかるんだけど、どうもその辺が我々とすればどうなんだろうって。あくまでも策定委員さんには、行政内部が作った資料を提示して、これを了承してくださいっていうだけの委員会なのかどうなのか。本当に木古内町のこれからの例えばまちづくり含めた部分で、本当にどうすべきかっていうことの議論が申し訳ないけれども、なんかそういう真剣な議論されていないような気がするものだから、その辺ははたしてどうなんですか。

平野委員長 暫時、休憩をいたします。

休憩 午前10時18分

再開 午前10時47分

平野委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

竹田委員。

竹田委員 課長、いま 2 期戦略の中で一番重要視するのは、人口減少対策だと思うんですよね。当然、移住定住含めた部分で。それで、先ほど課長の挨拶の中で、人口の推移については人口減少については、コンサルの結果待ちだってみたいに受け止めたんですけども、だとすれば 4 月からどうこうっていうわけにはいかないだろうっていうふうに単純に思うんですよ。

それと、前回から 1 か月の経過の中で、人口減に対するこの考え方がかなり変わっているんですよ、大幅に。これは、やはり移住定住っていうか人口減少が最重要課題だとすれば、私はやはり前回のままの K P I、目標値でいいのかなっていうふうに思うんですよ。

逆にダウンしているんですよ。前回、例えば移住定住世帯の K P I の目標 50 のものは、20 に 30 ダウンしている。やる気がないんだっていうふうに思わざるを得ないんですよ。

だから、これに最重要課題で取り組むのであれば、これから町長の政策の中でいろんな事業が出てくると思うのですが、それにしても一番のやはりネックになるところでないのかなと。それを全体この資料見れば、前回から数値等がダウンしている。だから、ここには力入っていないのかなっていうふうに思ってしまうんですよ、この資料見る限りでは。そこは、やはりもうちょっと数値を架空な数値じゃなくて、ある程度のこれこれしかじかでこういう数値目標に達成可能でないかっていうところで、なぜこれ例えば 50 のものが移住定住の目標値を 30 もダウンしたのかなってどうも不思議でならないんですよ、ここだけは。逆に、だから 50 でもいいんでないかっていうのが自分の考えです。その辺については、どうですか。

平野委員長 先ほど廣瀬副委員長から出た質問と類似しているんですけども、もう一度お答えいただきましょうか。

木村課長。

木村まちづくり新幹線課長 竹田委員含めての質問に対して、お答えさせていただきます。

この創生戦略については、まず大きな目的として東京一極集中の是正と地域の活性化ということでございます。地域の活性化イコール、地域の人口を極力減らさない、できれば維持していくということで、おっしゃったとおり人口減少対策あるいは移住定住として、大括りとしてどうしていくかということでございます。その中で、K P I として定められるものについては、移住定住のものについて具体的な施策を展開して、K P I を作って数値目標にしていくということでございます。1 期で移住定住世帯 50 件ということで、目標を掲げさせていただきました。これは、先ほども少し言いましたけれども、新幹線の開通前ということで、その期待値も含めて 50 件ということで掲載したんですけども、実は行政のほうで行政の制度を使わないで移住定住されているかたとかっていうのも少なからず見受けられます。そのようなかたについての把握っていうのがなかなか自分達としてもできないということで、それで今回は K P I の中で相談件数とか、そのうち移住する件数とかっていうのを位置付けて、さらにいままでの事業展開をしてきた中で、現実的な数値としては 20 件ということで、掲示させていただきました。ただ、この 20 件というのも私はかなりやはり様々なことをした中でないと数値目標としては、厳しいのではないかなという思いはありますけれども、やはりきちんと目標を掲げた中で、そこはやっていきたい

と思いますし、竹田委員がおっしゃったように、その程度で人口減少の進行を食い止められるかという懸念もありますからわかっていますから、そこはきちんと留め置いた中で、事業を進めていきたいというふうに思っています。以上です。

平野委員長 皆さんどうでしょうか、先ほど休憩の中で話しましたが、今回のこの中身については、当然 2 月 20 日の報告の時点で進みが遅れていますという課長が言った言葉が全てで、その後の 1 か月間で中身が十分になるわけもないと思います。この進みが遅れていたのが全てであるということは、担当課も認めたところでございます。しかしながら、4 月以降の総合戦略も立てなきゃならないという中、まずは妥協ってわけじゃないですけども、皆さん細かい部分については先ほどから言うように、納得されない部分はあるんでしょうけれども、まずはこれをもとに再度構成して作っていただいて、その後様々な漁業者ともこれから話をされると言いますから、その話をした上できょうの意見も踏まえた上で、また中身の構成をいろいろ仮に大がかりに変わるところがあってもいいと思うんです。そういう部分も含めて、担当課にはしっかり上乘せをしていただきたいと思いますというぐらいいかまとめようがないと思うんですけども、いかがでしょうか皆さん。

又地委員。

又地委員 ただ 1 点、9 ページの下の方。漁業の部分だけでも、ここにホタテが抜けているんですよ、ホタテ。これなぜホタテの話をするかというと、ホタテの文言入れてほしい。これは従来、町長がずっとホタテ、アワビ、ウニのこの三文字は必ず入れてきている、いろんな場面で。それと、知内の漁師さん方もホタテやっている人が多いと。木古内は 3 軒かな、確かホタテは、2 軒。それで、知内でテストケースで酸素を送ってやっているんですよ。知内の漁師の中で何人かが。そうしたら貝が死なないと、随分生きているという結果がいま出てきているんです。そういう結果もあるので、たぶんそれがもし酸素を吸入すると死なないわということになれば、たぶん木古内の 2 軒のかたも稚貝が死なないようになんかの方法をとるというふうになっていくと思うので、ぜひともここにウニ、アワビ、ホタテの文字を入れてほしいとそう思っていますので、文言作るより変えると思うので、お願いしますその辺は。

平野委員長 要望ということでありましたけれども、ほかの委員から。

新井田委員。

新井田委員 いま要望という形でいろいろ話出ましたけれども、漁業の部分に関しては、大変な状況にあるということは、もう事実であります。そういう中で、この文面にも謳っているように、いわゆる育てる漁業っていう大きな括りになってはいますが、やはり早くいま言った例えばワカメやコンブ、先ほど出ましたホタテだとかいろいろほかにきちんと見極めをして、やはり関係機関とかあるいは大学だとかここは水産学部、北大だとかありますので、そういう部分との協議の中で、協力いただいた中で、この前浜の何が適しているんだとか、いろんなデータはあるはずなんです。過去のデータいろいろあると思うので、そういう部分も含めて漁組とタイアップしながら、本当に雇用を生むための若手の人が育つためのそういう方向に持ってほしい。これは、本当に要望ですけども、ここに謳っているように、何かいまのところは前々からあるだけですけども、早くその辺の結論を出していただいて、やはり一歩・二歩進んでもらいたいという思いです。要望として。

平野委員長 ほか。

竹田委員。

竹田委員 二週間くらい前から道新に管内の町の戦略の関係の記事出ていましたけれども、私はやはり木古内町の他町に遅れをとらないように、先手必勝でやはり事業展開取り組んでいただきたいということを要望しておきます。

平野委員長 各委員からの熱い気持ちがありましたので、ぜひその話を踏まえて担当課には進めていただきたいと思います。

あと意見がないようですので、以上でまちづくり新幹線課の総合戦略の調査について、終えたいと思います。

このあと、その他報告事項で同じくまち課、産経に残っていただくんですけれども、ちょっと休憩とりますので、暫時、休憩といたしまして、11時10分まで。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時11分

<その他報告事項>

○総務課・まちづくり新幹線課・産業経済課

・職員採用状況等について

平野委員長 それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

その他の報告事項ということで、各課より職員採用状況について、こちらにも資料がありますので、早速説明をいただきたいと思います。

副町長。

大野副町長 おはようございます。本日は、ありがとうございます。

私のほうから4月1日採用の職員について、ご説明を申し上げます。

社会人枠ということで、4名を採用いたしました。すでに新聞等で人事の発表がされているんですけれども、今回の説明については、名前は伏せたままで報告をさせていただければというふうに思っております。

資料の1枚目の1の総務課の社会人枠の採用についてでございます。

1点目の受付期間ですが、2月3日月曜日から2月18日火曜日までということで、募集人員については、5名以内というふうに表示をしております。応募があったのは、17名です。うち1名のかたが辞退をされました。ですので、16名を面接を行いました。面接日は3月7日土曜日です。面接の方法につきましては、集団面接ということで、16名を三つのグループに分けて、そのグループにテーマを与えて、テーマを議論していただき、面接官にまとめた結果を報告してもらおうとそういう内容で、50分ほど議論をしていただいて、その様子を面接官が採点をするという手法をとっています。面接官については、4名です。4人の合計点が100点となるようにしています。70点以上のかたについては合格で、得点の高いかたから順に採用の通知を出しております。採用者数は、点数の上位から4名ということで、辞退が出た場合については、繰り上げることとしております。

合格者の概要ですが、男性30歳、函館市出身のかたです。函館高専高校を5年間出たあ

とに、秋田大学に4年間、土木環境工学科ということで、土木系の大学で学んでおります。このかた今回の採用の前に、礼文町の役場職員として土木のほうの技師として働いておりましたが、家族の病気がございまして、函館に戻っていたところ、木古内の募集があったということで、それを見て応募されたかたです。

二人目のかたは、男性30歳、江差町出身のかたです。江差高校を卒業後、漁業研修所に短期で入校をしています。また、漁業研修所のあとに尾道の海技学院マリンテクノというところに入學をし、ここも短期で3か月間、江差で実家は漁業を営んでいて、漁業に4年ほど就業したあと、ハートランドフェリー奥尻航路ですとか宗谷の礼文航路ですか、そちらのほうで働いていたようです。このかたも事情があつて退職をし、江差でアルバイトをしていたところ、木古内の募集があったということで、応募をしていただいています。潜水士の資格を持っています。また、4級のアマチュア無線ですとか小型船舶の1級ですとか、あとは第2級の無線技師です。こういった資格をお持ちのかたでした。

次に、3人目は41歳、函館市出身のかたです。このかたは、函大有斗を卒業後、北海学園の英米文化学科卒です。前職は、札幌のほうの財団法人札幌市交通事業振興公社、いわゆる地下鉄ですとかバス事業、ロープウェイ事業、そういったところの交通関係の事業に従事をされていたかたです。函館出身ということで、地元に戻って就業したいという意向で、応募されていました。

4人目は、男性で26歳、滋賀県の出身のかたです。滋賀県立甲西高校を卒業後、京都橋大学現代ビジネス学部を卒業し、宮入バルブというバルブの製作会社の営業として業務を行っていたかたです。この宮入バルブというところは、ガスの関係のバルブを作っているということで、海外にも取り引きがありまして、海外との営業ですので取り引きの中では英会話で事業を行っていたということで、この4名を採用ということで内定を出し、本人から勤めるということで返事をいただいたところです。それぞれこれまでの経歴を加味しながら、業務の配置位置をと言いますか異動の配属先を決定したところです。以上です。

平野委員長 大山室長。

大山まちづくり新幹線振興室長 皆さん、おはようございます。まちづくり新幹線課新幹線振興室の大山です。私のほうからは、道の駅次期センター長候補の採用について、ご説明をさせていただきます。

次期センター長候補につきましては、4月から任務に就いていただくということで、1年間かけて現センター長から道の駅の経営計画ですとか、運営について引き継いでいただくという予定でございます。

まず受付期間につきましては、1月の24日から2月の14日まで募集しておりました。

募集人数は1名で、応募は2名ございました。面接日は2月の27日に実施しております。

面接方法としましては、個別面接でやっております。面接官は5人で実施しております。

3名が一般社団法人、それから2名が町のほうからということで、実施しております。

5人の合計点が200点で、140点以上が合格という形でやっております。採用者数については、点数の上位から1名を採用、辞退が出た場合は繰り上げという形になっております。

合格者につきましては、44歳の男性、木古内町出身のかたでございまして、自営業をされているかたということで決定をしております。以上です。

平野委員長 続いて、片桐課長。

片桐産業経済課長 それでは、私のほうからは観光協会の事務局長候補のかたの採用についてのご説明をさせていただきます。

まず、受付期間が令和2年の1月24日から2月の24日まででございまして、募集人数は1名と、応募者数は全部で5名おりました。面接日がこちらは3月8日から10日にかけて、私どもで行ってまいりました。今回の応募者数が東京が2名、名古屋愛知県です。名古屋が2名、それと佐賀県が1名おりましたものですから、東京、名古屋、佐賀は福岡で行いましたので、そこに行ってまいりました。

また、面接官ですがこれは行政側が2名、あと観光協会が2名と4名で面接を行いました。4名の合計点が120点で、84点以上が合格ラインということにさせていただきます、点数の上位から1名を採用したところでございます。合格者の概要でございますが、こちら女性のかたで北斗市出身でございます。カナダのトロントスクールビジネスを卒業をされておりまして、いま現在、ハーバライフニュートリション株式会社というところにお勤めでございます。こちらのかたは、いまは外資のITの関係するお仕事をされておりますが、比較的面接の状況も良かったものですし、あとやはり年齢が比較的若かったということもありますので、そのような形をとらせていただきました。

次に、観光コンシェルジュになります。

こちらは、同じく令和2年の1月の24日から2月24日までの募集受付期間でございましたけれども、こちらは残念ながら採用には至っておりません。

また、観光推進員も同じく応募がありませんでした。ただ、広域観光コンシェルジュにつきましては、うちの今回観光協会事務局長の面接に際しまして、1名のかたが適任者というかたがいらっしゃいました。こちらにつきましては、実際のやられていた業務が名古屋で、観光案内をしていたというようなかたが観光協会の事務局長に応募があったんですけれども、そちらのかたは結構英語もペラペラという感じで、うちの広域観光コンシェルジュに合っているのではないかなということで、うちのほうではそちらのほうをアプローチしたんですけれども、なかなか条件が合わずに今回はお断りをさせていただいたという状況でございます。以上です。

平野委員長 職員採用の報告終わりましたけれども、皆さん聞いておきたいこと等ありますか。

相澤委員。

相澤委員 相澤です。よろしく。

各採用したかたおられるんですが、あちこちにいま住所構えているかと思うんですが、もちろん木古内に住んでもらうというのが条件ですよね。そういうふうになっているかと思うんですが、確認だけ。

平野委員長 どなたでもいいです。

片桐課長。

片桐産業経済課長 あくまでも採用条件とすれば、そこは町に住んでいただくということが条件となりますので、皆さんそこについては了解していただいていると思います。

平野委員長 社会人枠も含めてですよね。

副町長。

大野副町長 いま片桐課長からありましたように、募集の条件として町内に居住というふ

うにしておりますので、そのような確認をさせていただいております。なお現在、すでに住む場所については、この4名全て確定をしております。ちょっと蛇足で申し訳ないんですが、3名は独身者、1名は奥さんがいらっしゃるって扶養家族がおります。二人世帯です。

平野委員長 ほか。

又地委員。

又地委員 社会人枠の部分なんですけど、応募が17名あったということで、1人辞退。16名中、地元木古内町出身のかたの応募はなかったのかと。こう見ると全部町外なんですよ。

これ考え方が二通りあると思うんですけども、例えば働く場所がない木古内にという問題。逆に、例えば人口減少対策の中で、町外から採用したほうが木古内の人口減に少しあれがかかるだろうという見方二通りあると思うんですよ。そんな中で、はたしてどっちが良いのか悪いのか、あるいは4名の採用もう決まったわけですので、それにどうのこうのという気持ちはありませんけれども、16名の中で町内出身のかたが何名いたのかなとその辺をちょっとお知らせいただけませんか。

平野委員長 副町長。

大野副町長 木古内出身と言いますか現在住んでられるかたは、2名です。それと、現在町外におられて応募されたかたが2名、あわせて木古内出身ということでは4名いらっしゃいました。

平野委員長 ほかよろしいですか。

又地委員。

又地委員 観光協会の事務局長候補51歳の女性ということですけども、このかたは既婚されているんですか、それとも独身ですか。

平野委員長 片桐課長。

片桐産業経済課長 未婚者でございます。単身で来られます。

平野委員長 安齋委員。

安齋委員 2ページ目の観光コンシェルジュ、それから観光推進員、応募がそれぞれゼロだったということなんですけれども、これは情報の発信の仕方が悪かったのか、条件が合わなかったってことなのか。仕事の内容がよくわからないとか、そういうことで応募しなかったのか、集まらなかったのか、そこら辺はどういうふうにお考えになっていますか。

平野委員長 大山室長。

大山まちづくり新幹線振興室長 今回の観光コンシェルジュ、それから観光推進員についての募集なんですけれども、これまでもしてきたとおり、いろんな手段を使って、募集の発信はしております。ハローワークはもちろんですけども、募集のサイトです。協力隊ですとか、それから移住系のサイトですとか、そういったサイトにも積極的に載せて募集は図っておりました。その中で、実際に個別に相談に来られたかたもいました。電話でもありますし、実際役場に来られて話を聞きたいということで、相談に来られるかたもいらっしゃいました。ただ実際、この時期多数の団体がやはり協力隊も代わる時期ですし、たくさん応募していました。実際、道内にいけば50名くらいの募集を同時にしているような状況でしたので、実際その中で条件が合うってなかなかやはり難しいなというところは感じました。いまでも引き続き、継続的に募集はかけております。具体的に、今回の社会人枠で残念ながら不合格になったかたからもご相談も引き続きいただいておりますし、それからハロ

一ワークなどにも求人を引き続き出すということでやっておりますので、これからも募集はしっかりやっていきたいというふうに思っています。

平野委員長 因みに、事務局長候補の5名のかた、全国広くから募集いただいたということでありがたいなと思う反面、それぞれの地に面接に行かなければならなかったという大きな出費も旅費という形であったと思うんですけれども、この内訳についてはどのような旅費は産業経済課の中で持ち合わせていたものなのか、観光協会の方々もその中に含まれているのか。

片桐課長。

片桐産業経済課長 まず、うちの職員については、元々うちの今回の地域おこし協力隊の募集に関する旅費を持っておりましたものですから、そちらを活用をさせていただいております。観光協会については、観光協会の自らの会計で、そちらのほうから出させていただいております。以上です。

平野委員長 ほかよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

平野委員長 ないようですので、以上でそれぞれの課の職員採用状況等について、終えたいと思います。

お疲れ様でした。

それでは、休憩といたしますので、行政の方々に退席いただきます。

休憩 午前 11 時 33 分

再開 午前 11 時 35 分

3. その他

平野委員長 それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

きょうの次第としては、3のその他ですけれども、その他特に事務局からもないようですので、以上をもちまして、第9回の総務・経済常任委員会を閉じたいと思います。

大変、お疲れ様でした。

説明員：大野副町長、木村まちづくり新幹線課長、大山まちづくり新幹線振興室長
中村主査、片桐産業経済課長

傍 聴：なし
報 道：なし

総務・経済常任委員会
委員長 平 野 武 志